愛知池自然観察会　NO．72	2019．3．14(木) 曇り 最高11.4　最低2.6 参加者11人

２月に比べると太陽の南中高度が上がり、昼が長くなってきました。集合場所ではヒバリの初鳴きが聞こえました。上空に舞い上がったかと思うと、ひと節鳴いてあっという間に飛び去りました。初ヒバリの記録は5年前、３月４日というのがありました。ヒバリの声を聞いて春を感じることができるのは幸せなことだと思います。

ヒバリ（2014年4月撮影）

スズメより一回り大きく眉が白い。開けた農耕地や草地に巣を作りますが、それらが住宅などに変わり、ネコやカラスなどの天敵が増えて数を減らしています。

キジバト

羽にうろこのような模様、首に３色（青白黒）の筋模様があります。滝廉太郎作曲の「鳩ぽっぽ」のハトです。群を作って飛ぶドバト(カワラバト)の声はクウクウと聞こえ、キジバトは「デデポッポー」と聞こえます。主な食べ物は植物の種子ですが、雛を育てる時は雌雄ともに「そ嚢（消化に先立って一時的に貯蔵する場所）」の分泌物(ピジョンミルク)与えるので動物性の食べ物を探す必要がないため、のでほぼ一年中繁殖できます。

アリストロメリア（ユリズイセン）

南アメリカ原産。ヒガンバナの仲間で昭和初期に渡来し最近切り花として人気が出ているようです。扇風機の羽やスクリューのように見えませんか？葉っぱの付け根を見るとねじれているのが分かります。普通の葉では起こりませんが、アリストロメリアでは葉の左右の成長の度合いが異なるため、表裏が逆転してしまったと考えられます。しかし、なぜ葉をねじるのでしょうか。

ウヅキコモリグモ

枯れ草の上をちょこちょこと走り回っていました。ウヅキは卯月のことで４月のことですが、一年中見ることができる巣を張らないクモの一種です。春と秋、雌グモが糸いぼに卵のうを付けていたり、産まれた子グモを背中にのせているのを見ることができます。

ゴホントゲザトウムシ

脚は８本ありますが，クモのように体が２つに分かれて見えません。ザトウムシとしては脚の長さに比べ体が大きいのが特徴です。

ルリアリ

体長２ミリくらいの小型のアリです。明るいところで見ると金属光沢があります。庭にもいて林縁などで生活していますが室内に入り込むことがあります。肉食性の傾向が強いアリです。

ミツバアケビ

冬芽がほどけて小さな葉と葡萄のような雄花の蕾と２つの雌花が顔を見せています。花でんじ色の小さな花すがどのように受粉するのかはよく分かっていません。

ヒサカキ

３月の雑木林でにおう花です。何と形容するかは人それぞれですが、独特で、雄木の花（左上）のにおいです。左下は雌木の花です。

アリジゴク

古い建物の蔭に乾いた細かな土があるような場所にできます。愛知池では珍しいウスバカゲロウ幼虫の巣です。

ヤマモモの雄花（左）、雌花（右）もうすぐ咲くところ

植物　スイセン２種、カラスノエンドウ、オオイヌノフグリ、ニホンタンポポ、トウカイコモウセンゴケ、ワレモコウ、ウメ、イボタ、スイカズラ、ミツバアケビ、ヤマモモ雌木雄木、ネズ実、冬芽膨らむ（ソメイヨシノ、イロハカエデ、コナラ、ムラサキシキブ、ノイバラ、ヌルデ等）、スギ雄花の約は開いていた、

昆虫.クモ　マエアカスカシノメイガ、ユスリカの一種、ルリアリ、コマユバチ類の空繭ムネアカアワフキ幼虫の巣、アリジゴク、アシナガグモ幼体の死体、ウヅキコモリグモ、不明グモの卵のうと子グモ、チリイソウロウグモ卵のう、

鳥・その他　ヒバリ、ヒヨドリ、キジバト、ハシボソガラス、アオサギ、カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、バン、オオバン、カワウ群れ（若鳥）、ミサゴ、ゴホントゲザトウムシ、オカダンゴムシ、ホウライタケの一種、チャアナタケモドキ

次回は4月１１日（木）、午前９時30分～１２時、水資源機構P前集合、参加費100円